

# 国語辞典を作ろう

▼教科書178ページ

## 活用のイメージ

- A** 既存の国語辞典の分析  
↓「みんなの国語辞典」作り
- B** 「言葉についての新しい認識」  
↓「類義語使い分け辞典」作り
- C** 「方言コスプレ」現象  
↓「ふるさとの方言辞典」作り

### 教材の概要

「言葉についての新しい認識」(池上嘉彦)、「方言コスプレ」現象(田中ゆかり)という言語をテーマとした二つの教材を受け、辞書作りの活動を提示した。言語に関する評論を学習することで高まった言葉に対する興味・関心を、表現活動へとつなぐことができるよう、活用された。言葉に関して書いてまとめたり話し合ったりする活動であれば、教室の実態に応じたさまざまな言語活動が工夫できよう。

### 教材の解説

#### 活動例提示(教科書上段)

「国語辞典」作品のイメージである。「朝弁」「薄聞き」「遠恋」「亀レス」は、いわゆる若者言葉であり、生徒たちの造語も含まれる。この例はいずれも、「みんなで作ろう国語辞典」『もって明鏡』キャンペーン」の作品から掲載した。ほかの例のいくつかを、実践のための資料(↓p.25)に掲載した。

#### 活動の手順(教科書下段)

##### 1 辞書に載せたい言葉を選ぼう

辞書作りの「取材」のステップである。プ

流行語や若者言葉、仲間内ではやっている言葉の中から、国語辞典に載せたい言葉を選び、自分なりの意味と解説を書いてみよう。言葉の意味やその定義のしかたについて、理解を深めよう。

## 活動言語

### 国語辞典を作ろう

- ①見出し  
取り上げる言葉を示す。普通は平仮名で書くが、英語など外国語から来た言葉は片仮名で書く。
- ②表記  
【 】で囲んで表記(書き方)を示す。
- ③品詞  
名詞・動詞・形容詞など品詞名を示す。



あさべん-朝弁(名)朝学校に来て弁当を食べること。部活動の朝練習の後などに学校で朝食をとること。「大会前だし、今日も朝弁だよ。」◆同音異義語の「朝勉(朝勉強)との混同に注意。うすぎき(薄聞き)(名・他サ変)①人の話をぼんやりと聞くこと。「どうせまた薄聞きしてたんでしょ。」②話の理解が表面的であること。「そんな薄聞きでは、先生の真意は理解できない。」えんれん(遠恋)(名)①遠距離恋愛の略。「太郎には遠恋の彼女がいる。」②(形動)恋愛に縁がなく、恋愛から遠いこと。「あいつは遠恋だからな。」◆②は一年B組内で生じた派生的意味。かめレス(亀レス)(名)亀のように遅いレス(返事・電子メールの返信)。◆年賀状にも用いる。「年賀状ありがとう。亀レスでごめん。」

- ① 辞典に載せたい言葉を選ぼう  
最新の流行語や、仲間内だけで通じるような言葉は、まだ辞書に載っていない可能性が高い。普段使っている言葉に注意を向け、取り上げる言葉を選ぼう。
- ② 言葉の意味を考えよう  
選んだ言葉の意味を考えよう。



- ③ その言葉を何に対して使うか、どのような場面で使うか、具体例をあげ、そこに共通する意味を考える。  
その言葉と関連する言葉、意味や形が似ている言葉を国語辞典で調べ、その記述を参考にする。

- ⑤ 用例  
その言葉の使い方を具体的な例文で示す。
- ⑥ 参考情報  
語源や使い方の注意などについての解説を書く。



- ③ 辞典の項目を書いてみよう  
国語辞典の項目は、①見出し、②表記、③品詞、④意味、⑤用例、⑥参考情報などから成り、簡潔な解説でまとめられている。実際の国語辞典などを参考に、自分が選んだ言葉の意味を書いてみよう。解説や例文にユーモアを込めるなど、表現を工夫してもよい。

- ④ 項目を持ち寄って、国語辞典を作ろう  
作った辞典の項目を持ち寄って五十音順に並べ、みんなの国語辞典を作ろう。また、ほかの人の選んだ言葉や書いた項目をどう思ったか、感想を述べ合おう。

- ① 書き方のポイント  
(1) 多くの人が理解しやすい表現を心がける。  
(2) 「〜のこと」「〜という意味」などは、削っても意味が変わらない場合はできるだけ削り、短くまとめる。  
(3) 用例をうまく利用するなど、短い文章の中で意味を的確に伝える工夫をする。

## 豆知識

### 各社の国語辞典の特徴

高校生にも使いやすい小型国語辞典の用途や種類を示しておく。

- その言葉が正しいか間違っているか、判断を求めたいときに。▼『明鏡国語辞典』岩波国語辞典(正誤を○×で示している)。
- その言葉が、いつ頃から使われているのを知りたいときに。▼『新潮現代国語辞典』(明治以来の文献が豊富に引用されている)。
- その言葉について、個性的な解釈を知りたいときに。▼『新明解国語辞典』
- 最近定着し始めた俗語にいち早く着目し取り上げるセンスがある。▼『明鏡国語辞典』
- 現代語として広く使われている言葉を知りたいときに。▼『三省堂国語辞典』(中学生にもわかる説明を心がけている)。

- ② 選んだ言葉の意味を考えよう  
選んだ言葉に定義を与えるステップである。グループごとに話し合いをして、持ち寄った言葉に対する分析をし、辞書記述のために言葉の理解を深めていく。
- ③ 辞書の項目を書いてみよう  
執筆の場面である。これもグループごとに作業を行うとよい。言葉を担当し、各語の担当者を決めてもよいし、話し合いながら記述を深めていってもよいだろう。
- ④ 意味…意味を細かく分け、一般的な定義を先に、ユニークな説明を後にする。
- ⑤ 用例…特徴のある用例を厳選したい。
- ⑥ 参考情報…同音異義語や対義語への注意、使用上の注意など。
- ④ 項目を持ち寄って、国語辞典を作ろう  
まとめる段階。冊子にまとめるだけでなくプレゼンテーション(●ページ)へと展開することも考えられる。

# 学習活動の展開例 3 時間扱い (4 時間扱い)

## 学習活動の概要と指導上のねらい

4人程度のグループに分かれ、グループごとに1冊の「みんなの国語辞典」を作成する。国語辞典の記述の特色を理解し、それをふまえてわかりやすく簡潔に書くことが主なねらいとなるが、その過程にグループワークを取り入れることで、主体的・協働的な活動を通して課題を解決していく力や、「話すこと・聞くこと」の実践的な力を高めることにもつながるであろう。

### 学習目標

- 辞書の記述の表現上の特色をふまえて、語句などを工夫しながらわかりやすく簡潔に書く。
- 辞書の表現上の特色に興味をもつとともに、身のまわりの言葉に関心をもち、言語感覚を養う。

### 学習指導要領との対応

C (1) ウ  
A (1) ウ

### 評価の観点

関  
書

### 評価規準例

- 辞書の表現上の特色をとらえ、自分の表現に役立てようとしている。
- 身のまわりの言葉に興味をもち、関心を深めている。
- 辞書の記述の表現上の特色をふまえて、語句などを工夫しながらわかりやすく簡潔に書いている。

### 評価の方法

観察  
作品、ワークシート

関…関心・意欲・態度  
話聞…話す・聞く能力  
書…書く能力  
読…読む能力  
言…言語についての知識・理解

時間	学習活動と留意点	学習形態	評価基準例			C (努力を要する) 指導の手立て
			観点	A (満足している)	B (おおむね満足している)	
導入	1. 教科書を読み、作成する作品と活動のイメージをもつ。 ● 4人程度のグループに分かれて、各グループ1冊の辞典を作るという目的をもつ。	一斉授業	関	● 辞書作りの活動に強い意欲をもっている。	● 辞書作りの活動に興味をもっている。	● 参考図書 (『あふれる新語』など) を見せ、興味を喚起する。
	2. 辞書に載せたい言葉を選ぶ ● グループごとにブレイン・ストーミング (p.157 参照) を行い、辞書に載せたい言葉を出し合う。 ● 出された案の中から、辞書に載せる言葉を決める。KJ法やマトリックス法 (p.158) を用いて分類・整理をしながら候補を絞ってもよい。 *時間にゆとりがあれば、教室内で言葉を探すだけでなく、図書室、あるいは校外へとワード・ハンティングに出かけてもよい。	グループ活動 (4人程度)	関 話・聞	● 他の人が意見を出しやすいよう配慮しながら、話し合いの進行をよりよくしようとしている。 ● 他の方の話し合いへの参加のしかたに配慮しながら話し合いを進行している。 ● ブレインストーミングの段階と、候補を絞る段階とを意識して、話し合いの方向性をコントロールしている。	● 話し合いに積極的に参加しようとしている。 ● 自分の意見を積極的に述べている。 ● 他の方の意見を丁寧に聞いている。 ● ブレインストーミングの段階と、候補を絞る段階とを意識して、話し合いに参加している。	● 必要に応じて声掛けをする。 ● 上手なグループの様子を紹介するなどし、留意点を意識させる。
展開	1. 言葉の意味を考える ● 選んだ言葉の用例を出し合う。一つずつ用例を付箋に書き出すと整理しやすい。 ● 集まった用例を分類し、言葉の意味をどのように定義するか話し合う。付箋に書き出したものをKJ法 (p.158 ページ) で整理するのもよい。	グループ活動	関 話・聞	● 他の方が意見を出しやすいよう配慮し、よりよい話し合いにしよう ● 他の方の話し合いへの参加のしかたに配慮しながら話し合いを進行している。	● 話し合いに積極的に参加しようとしている。 ● 自分の意見を積極的に述べている。 ● 他の方の意見を丁寧に聞いている。	● 必要に応じて声掛けをする。 ● 必要に応じて声掛けをする。
	2. 辞典の項目を書く ● 項目ごとに分担して辞書の項目を執筆する。 ● グループ内で書き方を助言し合うなどしてもよい。	個人、またはグループ活動	関 書	● ユーモアを交えるなど、表現を工夫しながら書こうとしている。 ● ユーモアを交えるなど、読者を意識して表現を工夫して書いている。	● 辞書の記述のしかたの特徴に注意して書こうとしている。 ● 辞書の記述のしかたの特徴に注意して書いている。 ● わかりやすく簡潔な表現で書いている。	● 国語辞典の項目を確認させる。 ● 教科書の作品例や下段〈書き方のポイント〉を確認させる。
まとめ	1. 項目を持ち寄って国語辞典を作る ● 分担して執筆した項目を一冊にまとめ、辞書を完成させる。	グループ活動	関	● グループ内の他の人にも配慮し、ループ活動が円滑に運ぶよう心がけている。	● グループ活動に積極的に参加している。	● 必要に応じて声掛けをする。
	2. ほかのグループの作品を読んで感想を伝え合い、学習を振り返る ● 相互評価表・自己評価表に記入する。	一斉授業・個人作業	—	—	—	—
発展	1. 自分のグループの作品について、クラスで発表する ● 自分たちの国語辞典について、その特徴、工夫したところなどをクラスみんなに発表する。 ● グループ内で発表の役割を分担するグループ内で発表の役割を分担する。	発表 (クラス全体で)	関 話・聞	● 聞き手を意識し、聞き手を引き込むような発表をしようとしている。 ● 聞き手を引き込むような工夫をしながら、発表し得ている。	● 聞き手を意識してわかりやすく発表しようとしている。 ● 聞き手を意識してわかりやすく発表している。	● 上手なグループを賞賛するなどし、意欲づけを図る。 ● 発表後に声の大きさや話す速さ、話し方などについて助言する。
	2. ほかのグループの発表について相互評価を行う ● 発表全体についてまとめをし、相互評価表に記入する。	一斉授業・個人作業	—	—	—	—



# グループ学習で読み深める「羅生門」

▼教科書28ページ

所要時間 1時間～

グループ規模 4人程度

取り組み易さ 1 2 3

活動領域 話・聞 読

定番中の定番である「羅生門」だからこそ、講義型を脱し、グループワークを取り入れて主体的な読みの体験を場にできれば…。そんな思いに応えるアクティブな学習プラン。

## 付属資料 CD-ROM

- ワークシート
- 評価シート例

### なぜ「羅生門」でグループワークを取り入れるのか

どのような学習材であれ、グループで読むことは、本文の叙述の中から根拠を探しながら解釈を考えるというプロセスを学ぶ機会になる。特に「羅生門」は、時代設定・舞台設定が現代とは大きく異なるため、作品の背景を注意深く読むという点で、多角的な視点があればあるほど、読みが深くなる。グループワークで読む素材に適した作品であるといえる。

### 全時間をグループワークで行うべきか

基本的にはどの場面でも、グループワーク化が可能である。各場面における問いの例を下に表に掲げた。それぞれの場面ごとのワークシート例を指導用CD-ROMに収録している参考にしてほしい(そのうち、第一場面(第一段落)に対応したシートをP●に掲載した)。もちろん、生徒の実情や割ける時間数などを考慮し、必ずしも全場面をグループワーク化しなくともよいだろう。無理をせず、できる範囲で協働的学習を取り入れることが大切である。グループワークの成功体験の積み重ねが生徒の自信につながっていく。

### 「学習活動の概要とねらい」

「羅生門」を、グループワークを通して読み深める学習展開である。場面ごとにワークシートを用意し、グループで問いを共有しながら読みを深めていく、主体的・協働的な学習である。教師が一方的に「正解」を教え込むのではなく、生徒同士のやり取りの中から多様な「答え」を見つけ出すプロセスは、読むことの醍醐味を味わう体験となるとともに、生徒一人一人の主体的な読む力を育むことになるであろう。「羅生門」授業をアクティブにしたい教師におすすめである。

### 年間計画上の位置づけは？

作品の理解に関わる課題をグループワークで取り上げるためには、基本的な読解作業をする技術や知識を身につけておくことよ。一方で、語句調べなど、簡単な答えが出て、かつ、協力しながら取り組むと早く済む学習をグループで経験させ、雰囲気づくりをしておく。そうしておいた上で、作品の理解や考察に関わるグループワークを取り入れると、比較的スムーズに協働的学習が展開できる。

### グループ構成・役割分担

四人程度のグループがよい。司会、時計係、書記係、発表係、意味調べ係など、役割を決めておくと、一人一人の活動の意欲づけになるだろう。

### グループ活動での教師の支援

基本的には机間巡視しながら生徒の活動を見守る。教師が質問に応え始めると、グループで話し合うより先生に聞こうという方向に流れてしまうので避けたほうがよい。

時間	学習活動の概要	場面ごとの「問い」	ワークシート
1	全体を通読して作品の全体像を把握する。	—	—
2*	第一段落(p28・1～p32・13)を読み、職を失って途方に暮れている下人が考えていることを整理する。	① 手段を選ぶとしたらどうなるか。 ② なぜ「手段を選ばない」ということを実行しないのか。 ③ この時点において、羅生門は下人にとってどのような場所か。	1
3	第二段落(p32・14～p36・1)を読み、楼の上の様子をうかがう下人の心理の推移を読み取る。	① 「ある強い感情」とはどのようなものか。 ② 「恐怖が少しずつ消えていった」のはなぜか。 ③ 下人のはしごの登り方に注意して、下人の心理変化をまとめよう。	2
4	第三段落(p36・2～p39・15)を読み、老婆とのやりとりによる下人の心理の変化と老婆の論理を理解する。	① 「憎悪の心を、いつの間にか冷ましてしまった」のはなぜか。 ② 「この髪を抜いてな、…」という老婆の答えに下人はどう思ったか。 ③ 老婆の主張とそれに対する下人の解釈をそれぞれまとめよう。	3
5	第四段落(p39・16～p40・9)下人が老婆から着物を剥ぎ取り、夜の底に消えていく場面を読む。	① 下人はこの後どうなったと思うか。 ② 末尾の一文の表現効果を考えてみよう。 ③ この作品において、羅生門とはどのような場所だと考えられるか。	4
6	作品全体を振り返り、作品の主題について考えを深める。	—	—

\*第2時を例に、詳細な学習展開を次ページに掲載

### 学習目標

### 学習指導要領との対応

- 場面ごとの登場人物の心情を、本文の叙述をもとに読み取る。 C(1)ウ
- 他者との話し合いを通して多様なものの見方を理解し、自分の考えを深める。 A(1)ウ

### 評価の観点

### 評価規準例

### 評価の方法

関心・意欲・態度	● 作品に興味をもち、登場人物の心情を意欲的に読み取ろうとしている。	話し合いの観察、ワークシート記述の確認
読む能力	● 本文中の叙述をもとにして登場人物の場面ごとの心情を読み取っている。	話し合いの観察、ワークシート記述の点検・分析
話す・聞く能力	● 自分の意見をわかりやすく話し、他者の意見を聞いて自分の考えを深めている。	話し合いの観察・確認、発表の観察・確認
言語についての知識・理解	● 語の意味や常用漢字の読みを理解している。	ワークシート記述の点検・分析

## ワールドカフェ

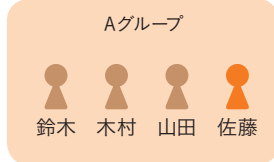
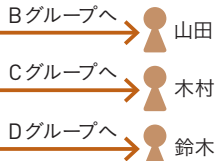
ねらい 問題解決

適正人数 4~6人

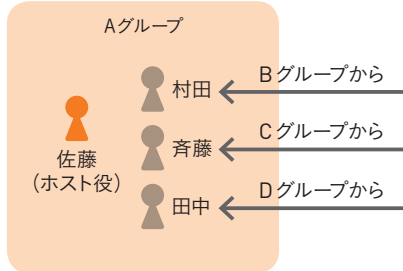
所要時間 45分~

本書の言語活動で  
活用できるもの

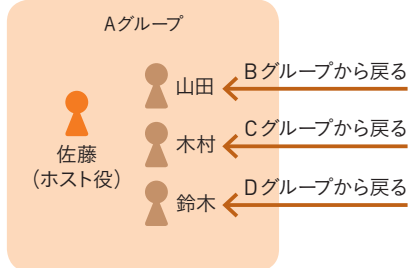
## 1 1回目話し合い

2 ホストを残し、  
それぞれ別の  
グループへ移動

## 3 2回目話し合い



## 4 3回目話し合い



## 概要・ねらい

グループでの話し合った内容を、一度グループを組み換え、別のグループで客観的に話し合い、再度元のグループに戻るという方法。別のグループに元グループの話し合いの結果を伝えることで、メンバーを変えて話し合いを深めることになるため、自分の花ではなく他の花に受粉する、「他家受粉(他家受粉)」になぞらえることもある。いろいろな考えをもつ多くの人と話し合うことで、テーマに関して考えを広げたり深めたりすることができる。

## 準備・規模など

グループで話し合いをし、そのメンバーが別々に他のグループに移動することに

なるため、一グループの構成人数以上のグループ数があることが望ましい。

グループでの話し合いは合わせて三回行うことになる。一回の話し合いを一〇分としても、合計三〇分、導入やまとめを含めると、四五分は必要となる。

必要に応じて大きな模造紙などを机の上に置き、参加者が自由にメモを取れるようにしておくといよい。グループ変更後、他者がそのメモを見ることで刺激を受け、アイデアが活発に生まれることになる。

## 活動の手順

① 四〜六名程度のグループを作り、テーマについて話し合う。このとき、大きな模造紙などを机に置き、参加者がそこに自由にメモを取るようにするといよい。

② 一人のホスト役を残して、他の人はしばらくになり、別のグループへ移動する。

③ 移動が終わったら、ホストの人が先ほどの話し合い(①の内容)について新メンバーに報告する。それを受けて、新メンバーで話し合いをする。

④ 元のグループ(①のグループ)に戻り、再びテーマに関する話し合いをする。

⑤ クラスで話し合いの内容を報告し合う。

## 留意点

・お互いの意見を尊重し、意見が言いやすい雰囲気を作る。

・合意形成が必要なテーマであっても、三回の話し合いとも、無理に結論を出そうとしないほうがよい。ワールドカフェの後で、別の形で合意形成を図る。